

実りの大地が息づくまち



保原は、くだものの里。果樹王国・福島県の名を担う優秀な産地として、桃、りんご、柿、ぶどう、プラムなどを産出。特に桃は年間四千トンを収穫し、全国において保原の桃を届けて「福島桃」の名声を高めています。近年では、いちごのハウス栽培も盛んに行われています。

また、大粒で甘く、ジューシーな味わいで評価の高い「大石プラム」は、保原町の民間品種改良家・大石俊雄さん（一九〇二〜一九九六）が開発した品種です。

農業の充実めざして

農業は町の産業の大きな柱の一つです。また、田畑そのものが町

の美しい自然景観を形づくるものでもあります。

農業をさらに充実させるため、町では認定農業者の確保や育成、女性農業者の育成、新規就農や農地有効活用の促進などの課題に取り組む、町の活力の源となる農業の確立を目指しています。

新名産じゃがいも焼酎

保原産のじゃがいもから作った焼酎が、平成十三年から新しい名産品として登場しています。

夏、穫りたてのじゃがいもを北海道斜里郡清里町に送ります。檜の木樽で熟成させたものが、翌年初夏に、おいしいじゃがいも焼酎となって保原に帰ってきます。

豊かな土、技術と熱意が

